

## 令和4年度第2回入試改善検討会議 会議録

日時 令和5年2月1日(水)  
午後1時30分から午後3時まで  
場所 さいたま共済会館505号室

出席委員 堀田香織委員、小柳光春委員、小林和夫委員、岩田彦太郎委員、  
長沢正貴委員、丸山巧委員、佐々木敏夫委員、廣澤健一委員、  
明野真久委員(代理)、宮尾孝委員、土橋徹嘉委員、鈴木香織委員、  
小熊誠委員、高岡豊委員、日吉亨委員、加藤哲也委員、清水雅己委員、  
田邊広昭委員、白倉克典委員、渡辺洋平委員、田中邦典委員、  
大松武晴委員(代理)、宮本典行委員  
欠席委員 大森由美委員、金子功委員

### 1 開会

### 2 委員長挨拶

### 3 協議

(1) 会議の公開・非公開について  
公開とする。

(2) 会議録の署名委員  
第2回は、小林委員と高岡委員とする。

(3) 資料説明  
事務局より

(4) 協議内容(○委員長 ◇委員 ▲事務局)

- まず、第1回入試改善検討会議を御欠席された委員の方に、「具体的な協議事項」について、御意見をいただきたい。「具体的な協議事項」は、協議題(1)の各高等学校の特色に応じた入学者選抜の在り方について、協議題(2)入学者選抜における中学校3年間の多様な活動の評価の在り方について、である。
- ◇ 入試制度について、様々感じるころはあるが、本日の協議の中で話していく。
- ◇ 部活の点数化が一番気になるころである。土日の地域の活動について、点数化はどうなるのか。学校現場から部活動を切り離していく方向ならば、部活動に重きを置くのはいかがなものか。その他の課外活動、例えばボランティア

等の活動も見てほしい。

- ◇ 高校としてもスクールポリシーとの関連を図りながら、特色化を図っていく必要がある。また、生徒の意欲をしっかりと受け止めていけるような入試制度となるように検討していく必要がある。
- ◇ 今の入試そのものはバランスが良いと感じる。一方で、専門高校の志願者倍率は低く、専門高校で学ぶ生徒は、行きたい学校というよりは行ける学校となっている。専門に関しての意欲がないと、進級、卒業に向けての指導が厳しい生徒もいる。学ぶ意欲のある中学生を求めていけるような、入試制度改革ができるとうい。
- それでは、第1回検討会議で出た意見等を踏まえ、項目ごとにまとめていく。1点目、「各高校の特色に応じた入学者選抜の在り方」について、入試を1回とし、できるだけ遅い日程としたことで、中学生の学力保障という観点からも、現行の入試制度はよくできているという意見があった。一方で、高校が特色を出せる入試としては不十分ではないかという意見もあった。  
今後、埼玉県としてどのような形にしていくかを検討していく必要がある。この検討会議では、1回の入試という大枠は変えずに、高校が特色を出せるような入試制度としていくという大枠は示せるのではないかと考えるがいかかか。
- ◇ 高校の特色ということだが、将来の希望を具体的に書ける中学生は割合としてそんなに多くはない。高校ではそういう生徒を集めるということだけではなく、高校でそういう生徒を育てることも特色の一つなのではないか。また、高校の特色という理由で、調査書の記載内容を高校ごとに変えないでほしい。
- ◇ 今の話は、中学生の活動の結果ばかりを評価するのではなく、入学してから高校の特色に合わせて、才能を開花する可能性も評価すべきということだが、未来の話になるためそこだけの評価することはなかなか難しい。つまり、中学校でやってきた結果を評価することと、高校に入って才能を開花するかどうかを評価することのバランスが大事である。
- ◇ 高校の特色ということだが、高校ごとにバラバラ過ぎない方が良いのではないか。改めて、現行入試はよくできた制度だと感じる。一定の枠内であっても各高校の特色に応じた選抜の基準を示しており、現行入試において高校ごとの特色は十分表れている。むしろ中学生や保護者がそれぞれの高校の選抜を理解して学校選びができていのか不安になるくらい、高校の特色が出せていると感じる。現行入試制度もアドミッションポリシーに基づいて作られている。これが更に高校の特色化となったときに、高校がバラバラになると、中学生が正しい進路選びができるのかどうか。部活動の地域移行に関しては喫緊の課題だと思うが、現行の入試制度の大枠を変える必要はないのではな

いか。

- ◇ 千葉県調査書の様式は、埼玉とあまり変わらない。埼玉県と千葉県の違いは、期待する生徒像があるかないかだけである。資料としては、千葉県と大きく異なるように思えるが、実際はそうではない。埼玉県の選抜基準で、1年、2年、3年の評定の比率が高校によって異なるであるとか、面接を行う学校と行わない学校があるとか、面接の配点の違いなどについて、中学校では高校がどういいう生徒に入学してほしいのかをしっかりと示している。つまり、現行の埼玉県の入試制度は、特色を出せる制度になっているのではないか。中学校の進路指導の中で普通科高校と専門高校の違いを示していくことは前提であるが、入試でこれ以上、高校の特色を出す必要はないのではないか。
- ◇ 義務教育と高校の教育の違いがある。高校には社会的役割があるからそれに見合った選抜を行う。埼玉県は社会的役割をしっかりと果たしている。もっともっと高校の特色を出してほしい。弊害があるのであれば修正すればよい。まずはそういう基本線を出せばよいと思っている。
- まとめると、高校の特色を出すことで、バラバラになることは好ましくないが、それを踏まえて現行の入試1回の大枠を変えずに高校の特色を出していくということであろう。
- 2点目、今後、中学校内外の活動が多様化することについてである。中学校の教員が、学校外の活動を把握することは、今後、より難しくなることから、調査書への記載内容を精査していく必要があると考える。これは、高校の選抜基準にも影響があり、調査書の記載内容や学校内外の活動の評価の在り方について、検討していく必要があるという方針は示せるのではないかと考えるがいかがか。
- 意見がないため了解いただいたとする。次に3点目、中学校外の活動は中学校で把握できなくなることから、中学校外の活動は調査書に記載できないことが想定される。しかし、中学校外での活動は何らか別の形で評価していかなければならない。また、国からの通知にもあるとおり、受検生の個性や意欲、能力を入試全体で評価していく必要があるが、調査書に意欲等が読み取れるような記述を求めることは、委員から御意見のあったとおり、現実的ではないと考える。従って、中学生の意欲等は、入試全体の中で自己アピールできる入試制度としていくことが考えられるがいかがか。
- ◇ 具体的には広島県で導入している入試のようなイメージか。とすれば高校側の負担が増えるのではないか。例えば、面接のような検査を高校が選択できるのであればいいと思うが、一律に行うことは、新たな負担が増えることになり、高校側から様々な意見が出るのではないか。
- ◇ 広島県の入試制度とはどのようなものか。

- ◇ 広島県では、中学校での活動の成果を自己アピールする検査がある。
- ▲ 広島県の入試は、「自己表現検査」と言って、パソコンを使うなどしてプレゼンなどをすることができる。調査書に部活動の記録は記載せず、自己表現検査を行うことで、中学校での活動状況やそこに向かう意欲、あるいは高校に入ってどのようなことをしたいかなどを、県で示したループリックを用いて高校が評価している。自己表現検査は令和5年度入試から広島県全県で行っているものである。高校によって、自己表現の配点に重みをつけているところもある。また、自己表現の中では、実技の上手下手を評価しているわけではない。実技については実技検査がある。
- ◇ 自己アピールに関しては、メリットもあるだろうがデメリットもある。このデメリットを考えないことには、自己アピールを導入することに賛成とは言い難い。
- ◇ どういう自己アピールとなるか分からない中で話しにくい、新学習指導要領で求められている資質・能力の一つである、思考・判断・表現の「表現」をどのように評価できるのかという視点は重要である。高校入試の中においても自己アピールしたことを評価していくことは大切である。一方で、先生方の業務負担についても配慮は必要である。高校入試は生徒の一生を左右する重要なことなので、しっかりと中学生に寄り添っていく必要がある。
- ◇ 生徒に表現させることは大切である。高校入試で表現させるとなれば、説明責任が伴うため、どのように評価したのかなど説明できるのかが課題である。
- ◇ 大会成績のみの記載だけでなく、個性、能力などを調査書に記載するとなれば先生によって差が出る。調査書に書くことはできても、これを評価することは難しいのではないか。
- ◇ 自己アピールを導入するのであれば、実施する学校としない学校とがあってもよいのではないかと思う。高校側の自己アピールの採点の課題もあるし、中学生からすれば5教科以外の新たな科目としての負担増となる可能性もある。自己アピールの点数配分にもよるが、影響も大きいので、慎重に考えていく必要がある。
- ◇ 高校入試であらゆる活動をパフォーマンスできるというように聞こえた。評価できないようなことを受検生が行ってきた場合の評価については難しいのではないか。
- ◇ 配点が高くないとすれば、入試の特色化とはいえない。入試の段階で表現できなかったとしても、高校に入ってから伸びる生徒もいる。そういった生徒がいることも考えていく必要がある。
- ◇ 地域部活動が入ってくることは決まっている。中学校で様々な活動を把握することが難しいということが出発点である。それでも様々な生徒の多様な

活動を評価してほしいということから、自己アピールといったことが出てきた。負担の話であるとか、自己アピールに関しての課題ばかり話に出ているが、実態として現状の入試制度のままではいけないという認識がある中で、自己アピールに代わるものがあるのかどうか、どう解決していくのかということを考えていくべきではないか。

- ◇ 地域部活動によって、調査書への記載が変わらざるを得ない。それを前提に入試制度を変えていかなければならない。イメージするものとして、現状の調査書の様式に、学校外での活動を本人の申告してきたことを記載できるようにし、これをこれまでと同様に各高校の選抜基準で評価することも可能ではないか。
- ◇ 現状、学校外のクラブチーム等で活動している生徒は本人に申告してもらい、中学校では調査書を作成するが、中学校が確かめられないものを調査書に書き入れていいのかという懸念がある。今後、地域部活動が進んでいく上で、調査書に中学生からの申告欄を作るのかどうかというような話である。
- ◇ 地域部活動になると、先生が見ていないところの活動が増えてくる。先生が全部把握するのは難しい。しかし、学校内の部活動と学校外の活動で評価を分けることはおかしい。調査書に生徒の活動の申告欄を設けることも一つかもしれないが、部活動だけでないすべての活動について自己アピールすることも大事ではないか。新しいことをやると先生たちの負担が増えるという話が出ているが、子供たちにとって一生に一回の高校入試なので、負担は別の場所で削ってでも、より良い高校入試制度を作っていただきたい。
- まとめると、受検生が入試の中で自己アピールする、もしくは中学校へ自己申告するといった制度を導入していくことが必要である。そのために導入にあたって、中学校、高校への負担や、評価方法などの課題があること明示する必要がある。
- 4点目、新制度の実施時期について、周知期間を十分にとるように配慮するということを示せるのではないかと考えるがいかがか。
- 意見がないため了解いただいたとする。
- 以上の4点をもう一度確認する。1点目、現行の1回の入試制度は維持しつつ、現状の制度を尊重しつつ、各高校でバラバラにならないように、高校が特色を出せるような入試制度となるようにしていくということ。2点目、学校内外の活動等が多様化することから、選抜におけるこれらの評価の在り方を検討していくこと。3点目、受検生の個性や意欲、能力を評価できるよう、入試全体の中で自己アピールできる入試制度となるよう検討すること。ただし、これには様々課題が考えられるので、その点について慎重に考えていくこと。4点目、周知期間を踏まえた上で、実施年度を検討すること。以上となる。検討

会議の中で出た入試制度の詳細についての意見は、次年度行う予定の入学者  
選抜方法改善協議会に申し送りする。

8 諸連絡

次回日程は、令和5年3月8日（水）15時から、県民健康センター

9 閉会

署名

委員長

堀田香織

署名委員

小林和夫

署名委員

高岡豊